

# 標十五句

松岡隆子選

忽然と雨が額に半夏生  
夏至の日の十七時間使ひ切る  
桑の実へ荒き雨降る墓参かな  
短夜の自選なかなか定まらず  
茅舎忌の根づよき草を引いてをり  
雑草を抜くにも力夏旺ん  
用向きの不用の用の髪洗ふ  
長かりし縄文時代早星  
白玉のなべて不揃ひ子ら遠く  
水打てば土眩いて一日了ふ  
本音かも知れぬ一言浮いてこい  
初蟬の声のこぼるる樟大樹  
夏果ての風に吹かれてポストまで  
蝉鳴いて余白の多き日記帳  
手花火や少年ふいにおし黙る

高橋愛子  
秋元きみ子  
佐藤郭子  
松原ふみ子  
別府優  
渡辺あつ子  
相馬晃一  
川上昌子  
神谷フジ子  
染谷晴子  
中谷信子  
椎名佐和子  
田中敦子  
植田喜代子  
菊池京子